

背景

◎ コーチングとは

- 意思決定の連続であり認知的活動でもあるため、効果的な意思決定ができる知識を持っておくことが重要 (Lyle, 1999; Lyle, 2003)
コーチング実践は指導者自身が持つコーチング観が基準
コーチングの一貫性だけでなく意思決定の難しい課題に対して対応する上でも重要 (Werthner & Trudel, 2006)

◎ コーチング観とは

- 松田ら (2020) を参考に、ここでいうコーチング観とは、指導に対する哲学観や価値観、考え方、指導観を含むこととする

◎ プロレベルでの競技経験がもたらすコーチングの実践知

- プロレベルでの競技経験がある指導者は野球に対する卓越したスキルや経験を持つことから優れた実践知を有していると予想される
このような指導者のコーチング観を明らかにすることは後進の指導者の指導力向上に大いに役立つと考えられる

◎ コーチング観に関する先行研究

- 選手のスキル獲得に焦点を当てた実践知を調査する研究は多いが、指導者自身のコーチング観・指導観に焦点を当てた研究例はそう多くない

目的

元プロ経験を持つ指導者が選手に何を育もうとしているか、そのコーチング観を明らかにすることを目的とし、後進の指導者の指導力向上に役立つ情報を提供することを旨とする。

方法

◎ 対象

- プロ野球選手として3年以上の経験を持ち、現在学生野球を指導している人物1名

◎ 調査方法

【対象】プロ野球選手として3年以上の経験を持ち、現在学生野球を指導している人物1名

【調査方法】半構造化インタビュー

※ガイドライン

- 1. 指導において、何を育もうとしていますか?
2. 指導において、プロ経験がどのように役立っていますか?
3. プロになれたのは何が要因になったと感じているか?
4. 今の指導に繋がる、強く影響を受けた人物はいますか?
5. 今の指導に繋がる、強く影響を受けた経験はありますか?

【調査実施】11月上旬

インタビュー時間: 2時間27分

【分析方法】SCAT (steps for coding and theorization)

◎ 研究倫理審査

日本経済大学倫理審査委員会の承認を得て実施 (承認番号: JUE-FK-2023-8-30-条-2)

◎ 被験者の属性等

- プロ野球選手経験9年 (高卒ドラフト5巡目で入団)
甲子園出場無し/プロ野球一軍公式戦出場機会無し
捕手
現 県立高校硬式野球部 監督 (地方自治体職員)
着任後競技成績 2019年秋に同校初の県大会優勝/2021年春の選抜21世紀枠候補校
指導者としてこれまで、約4年間小中学ボーイズの指導と約2年の大学硬式野球部監督の経験があり、中学ボーイズでは地方大会で優勝、大学では全日本大学選手権大会出場

結果 (一部抜粋)

Table with 7 columns: 話者, テキスト, 注目すべき語句, 語句の言い換え, テキスト外の概念, テーマ・構成概念, 疑問・課題. It contains multiple rows of interview transcripts and their analysis.

考察

- 野球だけでなく物事に対して「本気」で取り組む姿勢を重んじていた
育成年代である高校生と、高い競技レベルを持つ自身の目のギャップを自覚した上で指導に臨むことを重んじていた
人として応援される存在になることを重んじており、日々の野球に対する姿勢を重要視していた

これらは、直接的にはプロ野球経験ではなく引退後の民間企業によるビジネス経験に基づいていた。しかし、ビジネス経験を得たことから回帰的にプロ野球時代を振り返ることが出来たことで、「何を育むべきか」が洗練化されていた様子であり、競技力次第で淘汰される世界のプロ野球と、ビジネス経験を紐付けながら「本気で取り組む姿勢」「応援されるような人物になる=人間性」を育もうとしていることが確認された。また、年棒が発生するプロ野球経験という、常にプレッシャーの中で競技をしていた経験から、「楽しさ」を自己効力感や有能さと同義のものとして捉えていると考えられる。

結論

- ◎ プロ経験とビジネス経験がコーチング観に紐づいて捉えられていた
◎ 育成年代であることを自覚して指導に臨もうとする姿勢が確認された
◎ 野球だけでなく物事に対して本気で望む姿勢を持ち、主戦や主将などの役割を持つといった自己効力感や有能さを経験することで楽しいと感じて欲しいと考えていた

今後の展望

- プロ野球選手としての経験を持つ指導者に対して、競技レベル別、指導カテゴリ別に幅広く調査を実施し、相互の相違性や共通項を分析すること
高い競技レベルの経験を有するプロ野球経験者が持つコーチング観を、後進の指導者が活用できる情報・知見として一般化する
プロ野球選手としての経験を有しない指導者に対して、競技レベル別、指導カテゴリ別に幅広く調査を実施し、プロ野球経験から得られている実践知との相違について検証する

参考文献

- Lyle, J. (1999). The coaching process: An overview. In Cross, N. & Lyle, J. (Eds.), The coaching process: Principles and practice for sports, Oxford: Butterworth-Heinman: pp. 25-46.
Lyle, J. (2003). Stimulated Recall: A Report on Its Use in Naturalistic Research, British Educational Research Journal, 29(6): pp. 861-878.
Werthner, P. & Trudel, P. (2006). A New Theoretical Perspective for Understanding How Coaches Learn to Coach. Sport Psychologist, 20(2): pp. 198-212.
松田健太郎・森祐貴・根本研・伊藤雅充 (2020) 一流高校男女バレーボール指導者が持つ「コーチング観」に関する研究, バレーボール研究, 22(1): pp. 38-44